

Title	第三回大阪大学演劇学セッションの記録
Author(s)	
Citation	演劇学論叢. 2000, 3, p. 160-161
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97580
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

■第三回大阪大学演劇学セツシヨンの記録■

演劇教育の現在

—その理論と実践—

これは平成十年四月二日(木)に兵庫県立ピッコロシアター中ホールで開催された演劇学研究室の主催になる第三回大阪大学演劇学セツシヨンの講演記録である。

第三回目の本セツシヨンのテーマは「演劇教育の現在—その理論と実践」である。午後一時から午後五時まで、山崎正和氏(劇作家・東亜大学大学院教授)、大笹吉雄氏(演劇評論家・大阪芸術大学教授)の基調報告、また錦織久夫氏(兵庫県立宝塚北高校長)、勝島讓吉氏(日大鶴ヶ丘高校教諭)の事例報告、その後四氏をまじえてのシンポジウムという構成で行われた。なお、各氏の肩書は平成十年四月当時のもの。参加者は約80名で、セツシヨンの構成及び趣旨は次の通り。

〔セツシヨンの構成〕

基調報告① 山崎正和氏「演劇による教育」

基調報告② 大笹吉雄氏「高校演劇を見つづけて」

事例報告① 錦織久夫氏「宝塚北高校の場合」

事例報告② 勝島讓吉氏「日大鶴ヶ丘高校の場合」

講師と参加者による討論・司会〓天野文雄

〔第三回演劇学セツシヨンの趣旨〕

近代日本は、いまだ成熟した演劇文化を持つに至っていませんが、将来のその実現については演劇教育が果たす役割はきわめて大きいものと思われまふ。そこでは演劇についての正しい理解の扶植が期待されると同時に、成熟した演劇文化実現の必須条件である演劇人口の拡大も期待することができます。一方、問題点が山積する近年の学校教育においても、演劇の持つ教育的な力がより一層重視されてくるものと思われまふ。このような問題意識から、このセツシヨンでは、学校演劇の中でもとくに高校演劇の事例を中心に、「演劇にとつての教育」と「教育にとつての演劇」について考えまふ。第一線の演劇学研究者による基調報告と、教育現場で演劇に携わる高校関係者による事例報告によつて現状を整理し、それに続くセツシヨンで考察を深めたいと思ひまふ。(各方面への案内から転載)

【図版はインターネット非公開】